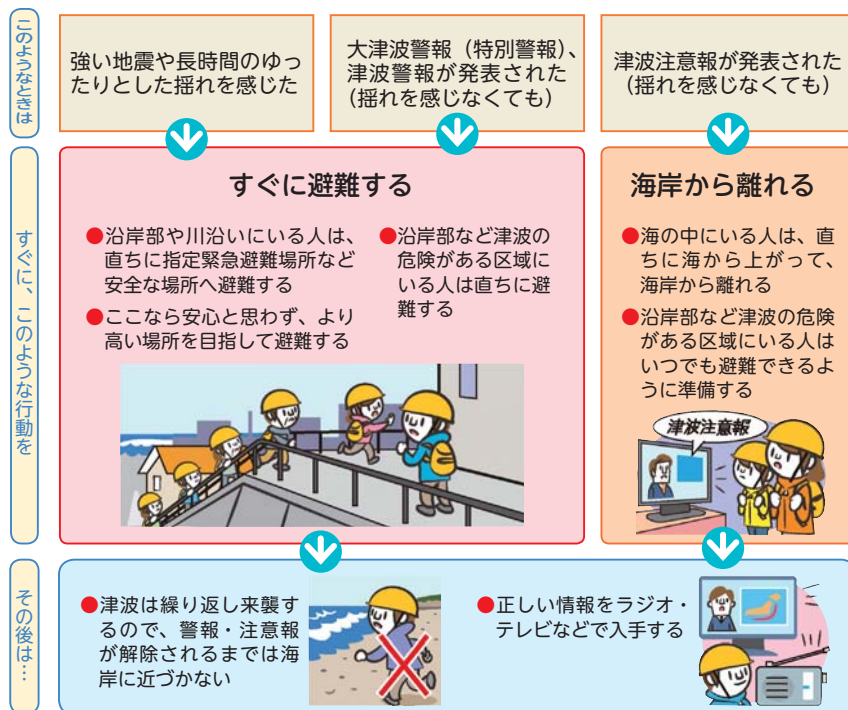


津波発生時の対応

津波から命を守るには、津波が届かない高い場所へ避難するしかありません。自分の命は自分が守るということを強く意識してください。

命を守る津波対応チャート



ミミがポイント！ 洪水・高潮、津波・津波避難に関する標識を覚えよう！

津波注意 津波避難場所 津波避難ビル 津波・高潮 洪水・内水氾濫



台風・暴風の基礎知識

熱帯の海上で発生する「熱帯低気圧」のうち、北西太平洋や南シナ海にあって最大風速が毎秒約 17 メートル以上に発達したものを「台風」と呼んでいます。台風は年間平均して約 26 個発生し、そのうち約 11 個が日本に接近、3 個程度が日本に上陸します。



風の強さと被害

平均風速 (m/秒)	風の強さ (予報用語)	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	おおよその 瞬間風速 (m/秒)
10以上～15未満	やや強い	風に向かって歩けにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	高い建物が揺れ始める。	20
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。	30
20以上～25未満	非常に強い風	何かにつかまっていられないと立ってられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。 ビニールハウスのフィルムが広範囲に破れる。	40
25以上～30未満						50
30以上～35未満	猛烈な風	屋外での行動はきわめて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。 外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。 住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	60
35以上～40未満						50
40以上						60

※平均風速は 10 分間の平均、瞬間風速は 3 秒間の平均のこと。

(気象庁資料より)

福岡県では

台風

昭和 20 年(1945 年)9 月、鹿児島県枕崎市付近に上陸して九州を北上した「枕崎台風」では、県内でも死者・行方不明者 87 人に達しました。また、平成 3 年(1991 年)9 月の台風第 17 号・第 19 号では、死者・行方不明者 14 人、負傷者 891 人、家屋の全半壊 4,448 棟などの被害を記録しています。(出典：「福岡県地域防災計画（基本編・風水害対策編）」)

大雨・集中豪雨の基礎知識

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。梅雨の終わりごろによく起こります。狭い範囲で突発的に降るため、事前に発生を予測することは比較的困難です。河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる被害の危険性が高まります。がけ付近や造成地、土砂災害警戒区域などは気象情報に十分な注意が必要です。



雨の強さと被害

1 時間雨量 (ミリ)	予報用語	雨の降り方
10 以上～20 未満	やや強い雨	ザーザーと降る。家の中では雨の音で話し声がよく聞きとれない。
20 以上～30 未満	強い雨	どしゃ降り。小さな川や道路わきの溝から水があふれる。
30 以上～50 未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになり、山崩れやがけ崩れが起きやすくなる。
50 以上～80 未満	非常に激しい雨	滝のように降る。マンホールから水がふき出す。
80 以上	猛烈な雨	恐怖を感じる。雨による大きな災害が起きる危険があり、厳重な警戒が必要。

(気象庁資料より)

⚡️ポイント! 局地的大雨の前兆

局地的大雨は、発達した積乱雲に伴って発生します。短時間のうちに雲がもくもくと大きくなって周囲が薄暗くなるようなときには、気象災害が発生する危険性が高まっていることを意識してください。次のような現象を確認して危険を感じたら、すぐに身の安全を確保しましょう。

- 真っ黒い雲が近づき、あたりが急に暗くなる
- 雷の音が聞こえたり、雷の光が見えたりする
- 急に冷たい風が吹く
- 大粒の雨やひょうが降り出す



❁ 福岡県では

大雨

県内における大雨災害で最大の死者・行方不明者を出したのは、286 人の死者・行方不明者を出した昭和 28 年（1953 年）6 月の梅雨前線による大雨災害（西日本大水害）です。「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」の記録的な大雨では、死者・行方不明者 39 人（災害関連死 1 人を含む）を数えるなど県内各地に大きな爪痕を残しました（平成 30 年（2018 年）8 月 22 日現在）。

台風・大雨発生時の対応

台風や大雨などによる風水害の危険が迫ってきた場合は、気象情報を確認しながら、早め早めの対応を心がけましょう。以下のチャートを参考に、命を守ることを最優先に行動しましょう。

命を守る風水害対応チャート

台風や大雨などで 風水害の危険が迫る



気象情報で注意報・警報が出ていますか？

↓ はい

↓ いいえ

警戒レベル 3 以上や避難に関する情報（避難勧告など）は出ていますか？

いいえ
➡

気象情報や周辺の状況の変化に注意し、避難に関する情報が出たら直ちに避難できるよう準備します

↓ はい

いいえ
➡

すでに浸水している、または夜間で見通しが悪いですか？

➡ はい

指定緊急避難場所など安全な場所に避難します



自宅や近隣の建物の 2 階以上のより安全な場所へ避難し、救助を待ちましょう



危険を感じたら早めの避難

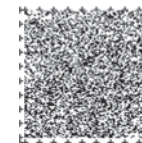
- 台風や大雨が予想される場合には早めに避難場所などの安全な場所に避難する



- 避難に関する情報に注意する
▶ 26 ページ参照



- 夜間～翌日早朝に大雨が予測される際には、暗くなる前に避難する



大雨などから避難するときの注意点

ポイント

1 動きやすく、安全な服装で



ヘルメットで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴にする。長靴は中に水が入り、歩けなくなるため厳禁。

ポイント

2 足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにして歩くと安全。



※電柱などを目印にするなど

ポイント

3 単独行動はしない

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結ぶ。



ポイント

4 深さに注意

歩行可能な水深の目安は約50センチ。水の流が速い場合は20センチ程度でも危険になる。危険だと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



ポイント

5 要配慮者を守る

高齢者や傷病者は背負い、子どもには浮き輪などを着けて安全を確保する。



📢 ミミがポイント! こんな危険も知っておきましょう!

- 風雨が強まってから屋根などを補強するのは非常に危険です。絶対にやめましょう。
- 強い風雨の中での見回りや、堤防・海辺に近づくのは事故のもと。専門の人に任せましょう。
- 土砂災害の危険がある場合は、なるべく早めに避難準備や避難行動を始めましょう。
- 大きな河川では住んでいる地域で雨がやんでも洪水になることがあるので、災害情報に注意しましょう。



※大規模河川よりも中小河川のほうが水位の上昇が速いことも知っておきましょう。

土砂災害の基礎知識

土砂災害は突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして人命や財産を奪ってしまいます。土砂災害の発生を予測するのは困難ですが、発生前には前兆現象が見られる場合があります。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ・山崩れ



雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人の住む家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。

こんな前兆現象に注意!

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

地すべり



地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ移動する現象です。ひとたび発生すると家や道路、鉄道など広い範囲に被害を与えます。

こんな前兆現象に注意!

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

土石流



長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂がいつきに下流へ押し流されます。勢いが強く圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊していきます。

こんな前兆現象に注意!

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木がまざったりする。
- 腐った土においがする。

🌸 福岡県では

土砂災害

「平成29年7月九州北部豪雨」では、土砂災害が多発しました。また、土砂災害の影響で大量の流木が橋げたに引っかかり、川の流れをせき止めたことで浸水被害を拡大させました。